

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 寺本 亮洞  
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

平成30(2018)年5月1日火曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



## 熊本地震三回忌追悼法要を営む

### 仮設住宅の被災者も参列 慰霊と早期復興を祈る



「熊本地震物故者三回忌 並 復興祈願法要」4月22日 釈迦院 (熊本県八代市)

## 被災直後の支援から持続的な支援へ

平成28年4月14日に発生した熊本地震は、熊本県、大分県を中心に大きな被害をもたらした。天台宗の寺院、檀信徒も少なからぬ被害を受けた。発生から2年を過ぎた本年4月22日、九州西教区では熊本県八代市の釈迦院(作村尚範住職)において「熊本地震物故者三回忌 並 復興祈願法要」を営み、参列者約120名が犠牲者の慰霊と早期復興を祈った。

「熊本地震物故者三回忌 並 復興祈願法要」は、22日11時より釈迦院で嘉瀬慶文宗務所長を導師に、教区内寺院住職

の出仕で執り行われた。法要には、被災寺院住職、檀信徒、甘井亮淳天台宗財務部長、藤光俊天台宗宗務会議議員、今泉

好正教区議会議長らとともに、被災地益城町の仮設住宅に暮らす被災住民の人々も多数参列した。法要最後には、参列者による加持が行われたほか、甘井財務部長より被災地の自治体、町作りのための民間団体に義援金と協賛金が贈呈された。

法要後、導師を務めた嘉瀬宗務所長が「地震で亡くなられた方々の三回忌法要を営ませていただきます。被災直後の支援活動に続いて、仮設にお住まいの方々の支援など、できる限りの支援を続けて参りました。一日も早い復興を目指し、教区としても頑張っていきたい」と挨拶。また、仮設住宅の被災住民も「今日の法要で、新たに悲しみがわき起こりましたが、犠牲者の回向ができて良かった。まだまだ元の暮らしを取り戻せていませんが、頑張るって生きたいと思えます」と語って



参列者全員に大般若による加持が

た。熊本地震から2年経った2018年の時点でも、未だ避難指示が2市1町1村、約1400世帯に出しており、避難勧告も1市5町1村、約3万世帯に出されている。避難所は今も被災各県で1000カ所以上あり、仮設住宅に暮らす人も3万人を超える。また避難者は11万人以上に上るといわれている。被災から2年という時間が経過した現在は、炊き出し、後片付けなど被災直後の支援活動と違った活動が求められる。被災者の生活環境が変わったことによる孤立化、引きこもりが増えることが懸念される。今後は、被災者ひとり一人の日常生活を支える持続的な福祉活動が必要となる。天台宗としても、その視点からの支援活動を考えていく時期となっている。



益城町の仮設住宅で暮らす人々も参列

### 極微

近頃は、ビックリするほど記念日が多い。3月3日は3を「み」と読んで「耳の日」、同様に7月10日は「納豆の日」など、語呂合わせが多い。この5月には、あまり聞き慣れないが、「迷路の日」というのがある。5月6日だ。5月は英語で「メイ」で6日は「ロ」で「迷路の日」▼

今話題の将棋の藤井聡太6段は、将棋を始めた頃に迷路作りに夢中になり、広告チラシの裏を使って何枚も書いていたそう。その「作品」の中には、大人でも解くのが難しいものもあったという。よく公園などで、垣根やひまわり畑などで造った迷路があるが、あの迷路には、全体が俯瞰できる高い場所が設けられている。迷路の途中にいる人間が、どちらへ行くべきか迷っている姿がよく分かる。ある方向の選択が、その先どのような選択に枝別れしているのが見えてくる▼ひよっとして、あの迷路の俯瞰図を眺めることは、将棋の指し手を考えることにつながる。幼少期、迷路に熱中したことが将棋の「大局観」を掴む鍛錬になっていたのでは、と傍目には思われるがどうだろう▼迷うことなく「名人」位というゴールに向かって着々と進んでいる天才、藤井6段。一方、何としても抜け出したいだきたいのには、「五月病」という迷路にはまっている新入生や新社会人である。